

## 2023 年度第 7 回価格審査会の開催について

2023 年度第 7 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2023 年 10 月 13 日(木) 10:00~12:00
場 所	本部 6 F 大会議室
委 員	田中 弘 日本工営ビジネスパートナーズ株式会社 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション室 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 栞原 圭一 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2023 年度第 6 回価格審査会議事録(案) 確認

2023 年度第 7 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」11月号、「Web 建設物価」11月号</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 セメント（バラ）（熊本市）、レディーミクストコンクリート（横手市ほか37都市）、道路用碎石類（米沢市ほか27都市）、再生碎石類（新庄市ほか6都市）、アスファルト混合物（豊岡市ほか13都市）、600Vビニル絶縁電線（IV）（北海道地区ほか9都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか32都市）、非鉄スクラップ（札幌市ほか9都市）ほか。</li><li>・価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（福岡市ほか6都市）、H形鋼（札幌市ほか47都市）、等辺山形鋼（札幌市ほか47都市）、鋼板（岐阜市ほか3都市）、配管用ステンレス鋼鋼管（溶接管）（北海道地区ほか8都市）、燃料油（札幌市ほか62都市）ほか。</li></ul> <p>2. 比較資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明</li></ul>

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	異形棒鋼で九州地区のみが値下がりした理由は何か。	需要低迷で値下がり傾向が続くなか、鉄スクラップの値上がりを背景に主要メーカーが販売価格の引き上げを打ち出したことで、全国的に値下がりが止まったが、九州地区では価格競争が収束せず値下がりをした。
質問 2	スパイラルフープが九州地区のみで値上がりしている。説明コメントで工場火災の影響について言及していたが、どのような状況なのか。	2023年1月、西日本の主要メーカー工場で火災が発生し、スパイラルフープは関西地区を中心に3月から4月にかけて値上がりした。工場は既に再稼働しているが需給ひっ迫が製品によって継続しており、それが今月になって九州地区に波及したという状況である。
質問 3	仮設工事は全体的に上伸傾向であると思われるなか、仮設鋼材賃貸料金が下落しているが、どのような状況なのか。	仮設鋼材賃貸料金が下落した品目は「不足分弁償金」である。これは賃借鋼材破損時の弁償費用であり鋼材価格と連動して下落した。仮設工事は労務費や重機コストの値上がりを背景に強含みであると認識しており今後も注視を続ける。
質問 4	東京地区の再生砕石の市況コメントにメーカー各社が廃材の受け入れ制限を強化しているとあるが、過去に実際に受け入れを停止した事例はあるか。	メーカー各社は廃材の保管に関して許可を得ているが、その量には制限があるため、個々の業者で受け入れ停止となった事例はある。全国的には新設道路工事が少なく需要が低迷しているなか、都市部では老朽化に伴う解体工事が増加しており、廃材の受け入れを停止する業者が出てくる状況にある。
質問 5	コンクリート製品全般で値上がりが多い。原料高や輸送コスト増加が主な理由とのことだが、他製品と比較してコンクリート製品で最大変動率が大きいものが多い理由は何か。	コンクリート製品全般は、セメントの大幅な値上がりが背景にあるため、他資材と比較して値上がり幅が大きい傾向にある。また、メーカー各社が値上げと同時に、不採算規格などの値上げを含む価格体系の見直しを行うことがあるため、その場合はさらに最大変動率が大きくなる。

質問 6	非鉄スクラップで銅・鉛・亜鉛が国際相場の上昇に伴って上伸との説明コメントがあった。これまでは銅と鉛は異なる動きが多かった印象があるが、どのような状況か。	非鉄スクラップの銅と鉛は別々の動きであり、今月はともに上伸したという結果である。過去にも銅が上伸、鉛が下落といったような動きはあった。
質問 7	レディーミクストコンクリートの岡崎市の値上がりに対する補足コメントで、新規物件が出てきたとあったが、具体的にどのような案件か。	岡崎市の新規案件は、砂防関連工事や河川改修工事、メーカー工場の増設工事などである。
質問 8	「アスファルト混合物」の値上がり地区のうち3地区が「製造及び輸送コスト増」の影響であり、残りの地区は「夜間割増」の影響であると説明があった。補足コメント欄には「製造及び輸送コストの増加」とあるが、このコメントは両者の説明となっているのか。	「夜間割増」は、夜間の出荷に必要な工場稼働人件費や輸送人件費に対する割増額であるため「製造及び輸送コストの増加」に含まれ、両者の説明となっている。
質問 9	セメントやレディーミクストコンクリートの市況コメントに出荷量が前年同月を下回り需要が低迷していると記載がある。一方で職人不足で労務需給はひっ迫しているという状況がある。セメントなどの出荷量が減少する要因の一つに、職人不足による工事延期もあるのか。	セメントやレディーミクストコンクリート等の出荷量が減少している要因は複数あり、労働者不足による工事着手の遅れ、コロナ禍や資材価格高騰による工事計画の見直し、レディーミクストコンクリートの使用量が少ない維持改修工事等の増加、プレキャスト化の影響などが挙げられる。
質問 10	木製品が下げ止まっていると説明コメントがあったが、その要因はなにか。カナダの森林火災の影響はあるのか。	木製品が下げ止まっている背景は、価格がウッドショック前の価格水準に近づいており値下げ余地が少ないと思われる点と、円安が進行して輸入コストが増加している点が挙げられる。カナダの森林火災による影響は現在のところ見当たらない。
質問 11	鉄スクラップの補足コメント欄に「需給ひっ迫を背景に、電炉メーカーが購入価格を引き上げ、上伸」とあるが、需給ひっ迫の理由には、国内発生量が少ないことに加えて、円安で鉄スクラップの海外輸出が増加していることも理由か。	鉄スクラップの需給ひっ迫の主要因は国内発生量が少ないためであるが、円安によって海外からの調達が増加傾向にあることも要因の一つである。電炉メーカーが購入価格を引き上げた理由には、鉄スクラップの国内還流を推進するためという理由もある。

質問 12	セメント東京地区の市況コメントに「カーボンニュートラルを見据えた設備投資などを推し進める構え」とあるが、石炭燃料から代替燃料に変更するための設備投資ということか。また実施された場合には価格にはどのような影響があるのか。	セメント焼成工程で発生する CO2 削減を目的に、焼成温度を下げる設備、効率良く CO2 を回収する設備への投資が検討されている。なお製品価格への影響については、現時点では明確ではない。
質問 13	レディーミクストコンクリートの値上がり状況の説明コメントで、2023 年 4 月号から 11 月号で「建設物価」掲載都市の 88.8%が上伸したとあった。値上がりした都市が増えたことで値上げの機運は収束するのか、それとも残りの 11.2%を含めこれからも継続する見込みなのか。	セメントの大幅値上げを背景とした急速な価格転嫁が続いてきたが、値上げ表明額の全額浸透に至らない地域も存在し、値上げ交渉はまだ継続中である。さらに今後は物流の「2024 年問題」の影響による輸送コスト上昇も予想されることから、以前の勢い程ではないかもしれないが価格の上伸傾向は続く見込みである。
審議結果	「建設物価」11 月号、「Web 建設物価」11 月号の価格動向に問題はなかった。	

以上